

総動員伝道

総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

クリスマス

おめでどうぶじをいします

総動員伝道 顧問 羽鳥 明



クリスマス、おめでどうぶじをいします。常日頃の総伝のための御祈りとご支援、心より感謝申し上げます。

聖書には素晴らしいクリスマス・ストーリーが数多くありますが、今年は、「東方の博士たちの物語」について、ご一緒に考えてみましょう。学ぶべき4つの点があることを思います。

第一、東方の博士たちは、星を観察しながら、ひたすら救い主の出現を待ち望んでいました。待ち望む者は、救い主にお目にかかれるのです。

「これは、神を求めさせるためであつて、もし探り求めることでもあるなら、

神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません」(使徒一七・27)。

第二、東方の博士たちは異邦人でありました。イエス・キリストの福音は、「ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」(ロマ一・16)。

第三、エルサレムに到着した東方の博士たちは、救い主誕生の地はどこかと、ヘロデ王に尋ねます。祭司と律法学者たちが、総動員されて捜すと、旧約聖書ミカ書の中に、「ベツレヘム」と記されているのを発見しました。クリスマスは、神によって永遠の昔から定められ定められた福音であつたのです。「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さい者だが、あなたのうちから、わたしのために、

イスラエルの支配者になる者がでる。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである」(ミカ五・2)。

第四、東方の博士たちは、ベツレヘムで救い主にお目にかかり、礼拝して献物をささげました。全ての事をヘロデに報告せよと彼らは命じられていましたが、夢のお告げがあつて、彼らはエルサレムに寄らずに故郷に帰ります。ヘロデ王は大いに怒り、その地方の2歳以下のすべての幼児男子を虐殺します。

やはり、ヨセフとマリヤにもお告げがあり、イエスさまはエジプトに逃れて命ながらえました。そして、イエスは人となられた神として、その十字架の死とよみがえりにより、「生きた全き救い主」(ヘブル七・24、25)として、今も私たちを救いたまうのです。

「そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、『わたしはエジプトから、わたしの子をお呼び出した』と言われた事が成就するためであつた」(マタイ一・14、15)。



総伝戦略を
活かして
有賀喜一

先ずリバイバル聖書神学校、国際福音神学校で正規の授業として、良い証し人、大いなる救いを用いて個人伝道の理論と実際を学びました。その後、リバイバル聖書神学校神学生40人は10月のある日に豊橋駅前、夕方6時半から2時間ほど、路傍伝道を実践し、15人が導かれました。それぞれ賛美、とりなし、トラクト配布、説教、ドラマ、個人伝道各チームに奉仕分担して、燃えて奉仕しました。

アメリカ、ポートルランドのある日本人教会で「教会開拓研修会」が一年前から持たれ、2年連続で講師として招かれ、アメリカ全土、全州に教会開拓を展開し、倍倍計画を達成するために、総伝戦略、日本教会成長研修所の教会開拓戦略を紹介し、大変感謝されました。

今年、11月にはスリランカのアジアンアクセスセッション(教会成長研修会)に招かれています。総伝戦略をも紹介する予定です。楽しみにしています。



1年を振り返って
小助川次雄

今年も総動員伝道のためにはほとんど何もできないままに終わってしまいました。70歳直前の大手術は、もともとからだの弱い私の体力回復を思うようには許してくれませんが、今さらのように、鈴木留蔵氏(委員)の信仰と諸奉仕に感動と羨望を覚えているというのが現実です。

しかし、そのような中でも、「主の恵みは十分であって」、少しずつですが対外奉仕もできるようになっていることを、主に感謝し、背後のいろいろな方々のご援祐にも感謝しております。

秋田の田舎で小さい群れの牧師につかせていただいておりますが、まさにこのことも「総動員伝道」のひとつだと思われています。

牧師として献身した者が高齢となり健康的にも試みられることも多くなってきたとき、「献身者」はどうあるべきなのでしょう。一般社会の定年者と同じように、牧師を引退して第二とか三の人生を歩むのでしょうか。共に主の導きと知恵をいただきたいものと祈り考える1年になってまいりました。



所感
中島秀一

今年も早くもクリスマスを迎える頃となった。年令を重ねると共に、時の経過の速さを痛感している。合わせて「夜はふけ、日が近づいている」(ローマ十二・12)のお言葉の真実を実感している。

私の母は現在九十六才で健在であるが、「私は明治、大正、昭和、平成の四世代を生きてきた」と自慢げによく言う。確かにそれは激動の時代であった。わが母ながら、よくぞ5人の子供を育ててくれたと誇りに思う。21世紀を迎えて早くも5年が経った。ベンチャーIT産業が、老舗の野球チームの親会社や放送会社を傘下に収めようと狙っている。金さえあれば何でも出来るというような風潮が蔓延している。時代は猛スピードで走り行くとしている。

日本宣教のみが、ゆっくりと、余りにもゆっくりと歩んでいるようにしか私には思えない。この年もまた虚しい1年であったのだろうか。「ご主人様、ことしも、そのままにして置いてください。そのまわりを掘って肥料をやって見ますから」(ルカ十三・8)。祈るや切である。



新田を耕せ
福沢満雄

伝道者として全国の教会を巡回して感じることは、20年前の教会と大きく変わりつつあるということです。総伝の話をして知らない人々も多く、また、総伝方式のやり方が必要としない牧師先生にも多く出合います。すでに、以前の総伝の使命は、勝利と祝福の内に終わった、と感じました。

もし、これからも、総伝を続けて行くとしたならば、現代の教会のニーズに合わせた、全く新しい方策が求められていると思います。

新田を耕して行かないと、生き残ることはむずかしいでしょう。

本田、羽鳥先生を中心に始まった、この伝道方策は、本当に画期的で素晴らしい働きでした。また、クルセードという大衆伝道とも両輪のようになつて力を発揮しました。しかし、時代は変わりつつあります。永遠不変のみことばの宣教の方策は、新しい時代に合わせて、思い切った方向転換の時を迎えています。

1年を振り返って、新しい年にふさわしい幻を祈っています。



約束のみことばに
生かされた1年
安藤能成

今年、私たちの教会に標語として与えられたみことばは、ゼカリヤ書四章6節にある、「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」でした。

このみことばにより、ときには政治的な手法を用いて物事の解決をしようと思ったときに、「いやいや、そうではない。祈って主にゆだねて結果を受けとめさせていただこう」と思い止まることができました。すると最善の結果に導かれるのです。

また新しく取り組むべきときにも、まず祈って、主に期待して事を始めると平安のうちに進められてゆく経験が与えられるのです。「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります」とのみことばのように、聖霊に期待しゆだねる教会のなかには自由で生き生きとした空気が満ちるので、明るい雰囲気になります。教会の玄関には初代の安藤伸市牧師が書いた「聖霊満堂」を彫った板が掲げられています。今年の標語を今年だけに終わらせないで、これからもずっと、このみことばに立って進ませていただきたいと願わされています。



この1年を
振り返って
姫井雅夫

時代はどんどん変わっていきます。教会の力が弱かった時代では、互いに協力し合わねば伝道も大変でした。今は教会が成長し、ひとつの教会で諸活動が出来るようになりました。そうなるに協力する必要性を感じなくなり、「総動員」することの意味が薄らいできました。他教派・教団と気を遣いつつ協力するのは面倒くさいとの反応です。ひとつの教会の中を見ても、皆でひとつの教材を使って信徒研修会をするのが困難になってきました。信徒の関心や興味が多様化しているし、決められた場所・時間にも集まることも難しくなりました。信徒や教会を「総動員」するのはなく、マン・ツー・マンで学び、祈り、奉仕するというパターンです。

21世紀の総動員伝道はどうあるべきか、求められていることは何なのかを真剣に協議しています。総動員伝道が35年に亘って作り上げてきた教会ネットワークを利用して、地域での伝道講習会やクルセード・タイプの伝道の動機付け、開催のお手伝いが求められているのかなと話合っています。財政の課題を抱えつつ、来年に向けて新たな意欲を燃やしています。ご支援をよろしくお願いいたします。



君は愛されるため
生まれた
住吉英治

昨年から今年にかけて、「君は愛されるため生まれた」(リ・ミンソップ 作詞・作曲)を教会でよく賛美した。歌っていると神の愛を感じ、元気がなってくる。多くの人に愛されているのもそういう理由からであろう。

今年も総伝は精力的に活動し、多くの恵みを与え、受けてきた。三重県のトラクト配布、内部・外部における伝道研修会、西千葉地区における「いのちの泉会」の交わり、それに超教派の働きとの協力など数々ある。私が担当させていただいた事務所における2回の伝道研修会も用いられ、感謝である。大嶋義隆師の「三浦綾子文庫」伝道も少しずつ浸透しつつあると聞き、趙南洙師の講演テープの申し込みも増えている。外部研修会では三谷康人氏が大きい用いられた。追加研修会の申し出もあった。国内においては日の丸・君が代の強制問題、急速な憲法改正の動きなど右傾化にあり、心配される。しかし、時が良くても悪くても、総伝は多くの人に「君は愛されるため生まれた」と伝える働きをさせていただきたい。そのためにもお互いの協力が更に必要である。



全力を注いで
鈴木留蔵

「さて、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛を持って互に忍び合い、平和の絆で結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい」(エペソ四・1-3)。

エペソ書は獄中書簡で、使徒パウロがこの世を去るときが近くなった時、神の靈感によって書かれた書簡であります。世界中の人々は、この書簡によって十字架を信じて救われ、永遠のいのちが与えられ、この地球上の使命が終わった時は天国へ入れていただく約束もされております。

総動員伝道によって、聖書を通して十字架を信じ救われ、素晴らしい生涯を送っておられる方々が日本全国にいます。神は、すべての人が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。21世紀も5年が過ぎようとしています。主の再臨も近いと言われていて、この時、神の御心は、世界の63億人がみな救われて天国に行くようになることです。日本の99%の救いのためにも、日本の教会・教団が全力を注いで、いのちをかけて総動員伝道に励むべきではないでしょうか。



首都圏キリスト教
大会と取り組んで
塩島光三

実質15年ぶりに再会される首都圏キリスト教大会の準備のために中核を担い、総務および事務局を担当していることが、総動員伝道の今年1年の活動の1部であったと思います。

最近はこの大会のための基本的な企画作業に追われています。その作業を通して、気がつかさせられた事は、日本における福音伝道が、本質的な事よりも枝葉の事に重きが置かれているのではないかと言うことです。

首都圏キリスト教大会は聖書信仰に基づいた伝道に立ち返った大会であるように志しなく思います。

イエス様は「マルタ、マルタ、あなたは多くのに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただひとつだけである」(ルカ十・41、42)と言われました。

また、モーセは「どうか、あなたの栄光をお示しください」(出エジプト三三・18、19)と願っています。

首都圏キリスト教大会こそ、主の栄光が示される大会となりますようにと祈り励んでまいりたいと願っております。



2005年を
振り返って
浅見鶴蔵

総動員伝道の委員として末席を務め早いもので1年余が過ぎました。

『全世界に出ていき、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい』(マルコ十六・15)。

毎月委員会を持っていますが、高齢の先生、大変忙しい先生がいますので全員の委員が集まることは仲々難しい状態ですが、良き協議をしています。

総動員の今年からの新企画「伝道研修会」は大変良い企画で恵まれました。

1月28日は、大島義隆師(八千代聖書教会牧師・TCUの法人顧問)を講師として、『三浦綾子記念文庫を日本のすべての教会に設置して福音を伝えよう』「教会成長の秘訣」等を学び、9月16日には、趙南洙師(川崎招待キリスト教会牧師)の「韓国の宣教師から見た日本の教会」両方共、大変良い勉強になりました。

10月11日に行われた「いのちの泉会」(西船橋栄光教会) 総伝の拡大のためにもたれている千葉地区での集会に参加しましたが、地域の先生方の熱心な姿勢には大変心強さを感じ恵まれました。これからも、総動員伝道の働きが主に守られて、すべての教会が成長し祝福されますようにと祈るものです。

●献金者ご芳名
05年4月〜9月
(敬称略・順不同)

教会・団体

日本宣教会代田、久我山宣教会、国際基督代々木、一麦、東京国際基督、JEC千代田福音、聖教会インターナショナル、横浜福音シオン・キリスト蒲田、富士宮栄光キリスト、本郷台キリスト、小川イエス福音、兄弟団成増富士見キリスト、白鷹キリスト、長井、荻窪栄光、松本キリスト、インマヌエル福井、湘南横浜シオン・キリスト、池の上キリスト、一麦西宮、腰越独立、世田谷中央、日基赤坂グリーンヒル、大阪一麦、金沢中央、三ツ境キリスト、同盟大井、佐渡金井キリスト、城間ナザレン、聖協団飯田、前橋聖契キリスト、名草キリスト、久遠キリスト教会伝道グループ、ニュージラランド日本大阪、みもみキリスト、みどり野キリスト、長野福音、糸魚川キリスト、軽井沢中央、下北聖書、黒磯福音、根本、呉朝樺会、松丘聖生会(株)ヨーゼフ・アチーアメント(株)、IGL学園福祉会

個人

松見睦男、林富貴子、岡本良二、羽島明、岩崎ひとみ、山崎博美、山崎正子、砂川富子、森山信子、栗原義忠、村上隆三、妙子、北條和人、孝子、並木サイ、深沢新明、田中進、鴨藤弘、池田ルイ子、中山勲、尾原尚子、浅野浩二、和子、深谷春男、二輪謙太郎、たか子、内山繁美、中島章裕、長橋和彦、晴子、藤原武史、庄野宇代、小林国重、安部すす子、姫井雅夫・栄子、千野静香、田村教世子、佐藤光義、北爪光幸・利子、加藤雄剛、石井薫、岡江保和、尾原光彦、塩島光三、小田切亨、須田八重子、仲川武、加納武、森田益光、谷口稔・紀子、清弘和海、島山義則、山崎健司、高橋ゆり子

●ご支援、感謝いたします。

10月に石手県盛岡市で伝道講習会を開催いたしました。今年の前半、山口市で開催したのとほぼ同じ内容の講習会です。エリヤ会の三谷氏にご同行願いました。東京で話し合っていることが地方で通用するのかどうか、地方の先生方と懇談してきました。「伝道に対するひとつの刺激」になればと願っています。

来年も2ヶ所で開催したいと企画中です。でも早速、秋田市から開催の要望があり、年内ですが12月にかがいます。関心のある地域があれば、ぜひ声をかけてください。

9月会計

収入	316,511
活動費	56,892
ニュース印刷発送	94,608
部屋代	197,168
人件費	0
積立	10,000
支出計	358,668
累計	-330,937

2005年12月1日発行

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
OCC、614号室

総動員伝道

03-3291-5035

03-3291-5266

Eメール sodoin@ybb.ne.jp

ホームページ

http://www.gospeljapan.com/
sodoin/

振替 00140-1-107255

代表 姫井 雅夫

編集 住吉 英治

定価 1部10円 (送料別)

印刷 新生宣教団 (2,500枚)